

- (イ) 一月の實際労働日數
- (ロ) 一日の所定就業時間
- (ハ) 一月の超過又は短縮労働時間合計
- (ニ) 一日の平均就業時間

- 11 貨物給與の有無
 - 12 交通事業體
 - 1 氏名
 - 2 男女の別
 - 3 出生の年月日
 - 4 尋常小學校卒業地
 - 5 配偶者の有無
 - 6 教育の程度
 - 7 職名(兵役關係)
 - 8 就業の年月數
 - 9 賃銀又は給料
 - 10 貨物給與の有無
- 附 技術者 工場、鑛山及交通事業體(地力鐵道、軌道、架空索道、定路線自動車、運輸取扱業)
- 5 教育
 - (イ) 卒業又は修業學校名
 - (ロ) 専攻學科名

小倉英二氏應召

縣屬、縣統計協會會務委員小倉英二氏は八月下旬應召、縣統計課員の見送りを受け九月三日水戸驛發〇〇隊に入隊した。

統計課員の異動

七月三十一日付で左の如く統計課員の異動が發令された。

屬 池田正雄

總務部地方課勤務ヲ命ス

統計主事補 松井桐紫

任縣屬

綿引 操

福田 信男

統計主事補ニ任ス

最近の統計

昨年の實收高に比し 麥類は三割餘の增收

作付段別も若干は増加したが

天候の適順と作業の順調とで

昭和十四年の縣下麥作付反別及び其の前年の比較は

△大麥三萬四千九百十八町九反歩(一分三厘減)△稈麥二千四百二十六町九反歩(八分二厘減)△小麥五萬五千九百三十三町八反歩(三分九厘増)△燕麥七町四反歩(六割四分四厘増)△計九萬三千二百八十七町歩(一分六厘増)

で縣統計課の調査發表による本年麥類實收高及び其の前年との比較は

△大麥九十四萬七千八百九十石(三割零分五厘増)△稈麥四萬二千八百五十四石(三割四分九厘増)△小麥九十四萬三千五百四十五石(四割四分六厘増)△燕麥百十石(十六割八分三厘増)△計百九十三萬四千三百九十九石(三割六分九厘増)

郡市名	作付反別	本年收穫高	前年ニ比シ	作付反別	本年收穫高	前年ニ比シ
大	水戸	二二・三	減	一	一	減
小	水戸	三・七三	減	一	一	減
大	水戸	八三	減	一	一	減
小	水戸	五・一	減	一	一	減
大	水戸	九八	減	一	一	減
小	水戸	三三・五	減	一	一	減

萬四千三百九十九石(三割六分九厘増)である。大体に於て本年の麥作景況は初期の生育は極めて良好だつたが嚴冬期に入つて著しき低溫過乾の天候が持續した爲生育を阻害されたが其の後天候が恢復し溫度も上昇するし晴天が多く雨量も適當にあつたので作況は漸次好轉し、殊に結實期に入つてからは氣候が適順だつたので登熟が極めて良く收穫作業も亦順調に行はれたから昨年の實收高に比較して本年の麥類實收高は三割六分九厘といふ增收を見るに至つたものである。之を各郡市別に示せば左の通りである。(△印は減)

郡市別	蠶養戸數	蠶種掃立數量	白繭	黃繭	繭計	前年收繭高	前年ニ比シテ
東茨城	三,五八八	六,〇七九	一,〇四七	三,九八九	一,〇六六	一〇,一〇五	四,〇九〇
西茨城	一,三三五	五,九八六	一,四七九	一,七五四	二,四一三	七,一四一	一〇,〇七
那珂	二,八五一	三,三五一	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
久慈	二,八五七	三,〇三三	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
多賀	二,三三〇	三,〇三三	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
鹿島	二,三三〇	三,〇三三	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
行方	二,三三〇	三,〇三三	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
新治	二,三三〇	三,〇三三	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
筑波	二,三三〇	三,〇三三	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
眞壁	二,三三〇	三,〇三三	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
結城	二,三三〇	三,〇三三	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
猿島	二,三三〇	三,〇三三	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
北相馬	二,三三〇	三,〇三三	四,〇〇一	一,九七九	七,七〇八	一三,一八一	四,〇七
合計	三〇,九八八	三三,七二二	二,四七九	一〇,八五五	一,五七三	一〇,八五五	一〇,八五五

掃立の手控で

春繭は減収

昨年の水害も祟る

縣統計課が九月四日發表した昭和十四年に於ける縣下の春

蠶收繭高は總數百八十五萬三千貫で其の内白繭種は七十萬六千八百六十六貫、黄繭種百十四萬六千三百三十四貫で、前年收繭高百八十七萬八千五百四十七貫に比較して二萬五千五百四十七貫即ち零割一分四厘の減収を見た。其の原因は勞力不足の爲養蠶戸數が減少したので従つて掃立數量も減じたのと昨年の水害に依つて桑葉の發育が不良だったのにある。郡市別は左の通り(△印は減を示す)

郡市別	蠶養戸數	蠶種掃立數量	白繭	黄繭	繭計	前年收繭高	前年ニ比シテ
東茨城	四,三三八	一七,〇三三	三,〇四三	六,七七一	一三,一六六	一六,〇八八	△六,六九三
西茨城	二,六九九	一〇,一一一	三,〇四三	四,五八三	七,七〇八	七,七〇八	△
那珂	一,九九一	六,三三一	三,〇四三	三,〇四三	五,八八三	六,四六一	△二,一八八
久慈	二,一九一	六,四四八	三,〇四三	三,〇四三	五,八八三	六,四六一	△五,四〇一
多賀	一,四一三	二,九九〇	一,五〇〇	九二六	二,四二六	三,三三三	△一,〇七九
鹿島	二,四四二	二,三三〇	三,〇四三	四,七〇八	七,七〇八	八,四四二	△七,〇七五
行方	二,三三〇	二,三三〇	三,〇四三	四,〇五五	七,〇九八	七,〇九八	△三八六
新治	二,三三〇	二,三三〇	三,〇四三	四,〇五五	七,〇九八	七,〇九八	△五,〇三三
筑波	二,三三〇	二,三三〇	三,〇四三	四,〇五五	七,〇九八	七,〇九八	△五,〇三三
眞壁	二,三三〇	二,三三〇	三,〇四三	四,〇五五	七,〇九八	七,〇九八	△三,〇八八
結城	二,三三〇	二,三三〇	三,〇四三	四,〇五五	七,〇九八	七,〇九八	△三,〇八八
猿島	二,三三〇	二,三三〇	三,〇四三	四,〇五五	七,〇九八	七,〇九八	△九,〇四九
北相馬	二,三三〇	二,三三〇	三,〇四三	四,〇五五	七,〇九八	七,〇九八	△三
合計	三〇,九八八	三三,七二二	二,四七九	一〇,八五五	一,五七三	一〇,八五五	△五,四〇七

馬鈴薯は

増収を豫想

氣候の適順で

八月一日現在に依り縣統計課が調査した縣下の馬鈴薯豫想收穫高は七百二十八萬八千七百九十七貫であるが、之を本年六月一日現在調査の豫想收穫高に比すれば八十一萬一千三百十八貫の増収を見た譯である。之は一部地方には虫害を見たが概して氣候適順で成育の経過が良好だつた爲である。八月一日現在の豫想收穫高郡市別は左の通りである。(單位は貫)

郡市名	八月一日現在豫想收穫高
水戸	二八、〇〇〇
東茨城	六〇一、九六六
西茨城	三〇五、〇八九
那珂	七九八、六九八
久慈	五七三、一六〇
多賀	三一三、六一五
鹿島	一三四、〇八六
行方	八六、一四四
稲敷	五六二、二八三

菜種は

一割八分餘減収

大小麥に轉換

縣統計課が九月七日發表した本年の縣下菜種作村段別は千二百三十一町歩で前年の作付段別に比すれば三百九十九町一段歩を減じ、收穫高は一萬四千二百石で前年に比し三千百九十一石(一割八分六厘)の減収を見た。之は大小麥の價額が高いので農家が菜種を麥類に轉換したのと勞力不足等に依るもので、郡市別に示せば次の如くである。

郡市別	作付反別	收穫高	價額
水戸	〇・四反	六石	一五六圓
東茨城	二〇一・八	二、三二九	六〇、〇八七

郡市別	收穫高	價額
新治	五四〇、九二七	
筑波	九三二、七七四	
眞壁	七三〇、八九三	
結城	六七六、八四三	
猿島	八六六、九一五	
北相馬	一三七、四〇四	
合計	七、二八八、七九七	

郡市別	面積	收穫高	價額
西茨城	一一・三	二、二二七	
那珂	一七七・〇	二、五五一	六六、九一六
久慈	二六・四	三七六	八、八八三
多賀	九・四	一〇七	二、八二四
鹿島	三七八・八	三、九四六	九九、〇三八
行方	一八一・三	一、七八二	四六、〇〇七
稲敷	六・〇	七二	一、七三〇
新治	八〇・〇	九〇〇	二二、八五八
筑波	二七・〇	三八二	九、二九五
眞壁	二四・三	三〇六	八、二九三
結城	五〇・七	六〇五	一五、九九三
猿島	四八・二	四三三	一〇、四七九
北相馬	七・四	八二	一、九七〇
合計	一、二三一・〇	一四、〇〇二	三五七、七五六

耕地は減じたが

水稻の作況は稍良

陸稻の作付面積は増加

縣下に於ける昭和十四年稻作付面積は總反別十三萬二千七百七十五町八段歩で其内水稻は九萬四千二百十四町四反歩、

陸稻は三萬八千五百六十一町四反歩で、之を前年に比較すれば水稻は四百四十一町一段歩の減少を見たが陸稻は之に反し六百八十二町一段歩の増加を見たので結局總反別に於て二百四十一町歩の増加を示した。之は昨年水害で水田の荒地となつたものが復舊未完成で水稻の作付不能のがあつたが其の減少した分を陸稻作付によつて補つたので總反別で増加を見た次第である。

次に八月十五日現在に於ける水稻作況は作付當時から氣候が概して適順で成育は良好だつたが八月五日の暴風雨で縣北部及び東部地方に於て幾分被害を蒙つたので縣下を通じて稍良(五分以内の増収)の作況である。郡市別の作況並に作付面積は左の通りである(單位は反)

郡市別	水稻作況	稲作付面積	
		水稻	陸稻
水戸	普通	一五・一	七・九
東茨城	稍良	六八五・六	五、五〇五・五
西茨城	全	四八七・三	一、七六・九
那珂	全	五、六五・六	五、四三・五
久慈	全	六、〇三・五	八、九七
多賀	全	三、五九・五	五、五二
鹿島	全	六、五〇・九	二、九六・五
行方	全	五、二二・五	八、三一
合計		三三、〇〇・〇	三三、〇〇・〇

稻敷	良	一三、七七一	一、九九一	一五、三六五
新治	良	九、三三七	三、三七七	一三、七〇四
筑波	良	七、二九四	二、七四〇	九、八三三
眞壁	良	九、四三二	三、〇四〇	一三、六七一
結城	良	六、八九〇	三、〇四一	九、三六一
猿島	良	四、四二八	五、六四七	一〇、〇七五
北相馬	良	四、八〇〇	八、九四四	五、七三九
合計	良	四、二四四	六、一四四	一三、七五八

玉蜀黍は増段

三十七町餘歩を

縣下に於ける昭和十四年玉蜀黍作付面積は一千二百二十九町五反歩で昨年の作付反別に比すれば三十七町二反歩の増加を示した。郡市別に示せば左の通りである(單位は反)

水戸	一・二
東茨城	一六八・三
西茨城	五六・二
那珂	八五・三
久慈	五三・七
多賀	三〇・二
鹿島	七六・八

行方	五三・七
稻敷	一七五・三
新治	一一二・五
筑波	一〇四・二
眞壁	八五・八
結城	七三・〇
猿島	九六・八
北相馬	五六・五
合計	一、二二九・五

茶畑は減る

採取と枯死で

昭和十四年六月末日現在に於ける本縣茶畑の總段別は一千百四十八町六反歩で前年同期に比し四十五町一反歩の減を見た。之は他の農作物に比較し製茶の價格が低廉な爲茶樹を採取つたのと昨年の水害に依つて枯死したのが相當にあつた結果である。之を郡市別に示せば次の通りである。

水戸市二町一反歩△東茨城郡七十三町八反歩△西茨城郡三十二町歩△那珂郡七十五町六反歩△久慈郡百三十三町三反歩△多賀郡二十二町四反歩△鹿島郡四十七町七反歩△行方郡三十五町三反歩△稻敷郡五十一町六反歩△新治郡六十五町四反歩△筑波郡三十三町

五反歩△眞壁郡四十町四反歩△結城郡九十五町八反歩△猿島郡四百二十町一反歩△北相馬郡十九町六反歩△計一千百四十八町六反歩

増産した

澱粉

馬鈴薯は減ず

昭和十三年七月から昭和十四年六月に至る一ケ年間に於ける縣下の澱粉製造場数は十八ヶ所で前年に比し一ヶ所増加した。澱粉の生産數量は千四百七十三萬一千七百三十三斤で之を原料別に分ければ馬鈴薯九千三百七十五斤、甘藷千四百七十二萬二千三百五十八斤で前年に比し總數に於て五百五十五萬二千二百二十五斤を、甘藷に於て五百六十萬七千二百斤を何れも増加し、馬鈴薯に於て五萬四千七百九十五斤減少した甘藷が増加したのは砂糖の代用品として需要の増加したのに依るもので、馬鈴薯に於て五萬四千七百九十五斤減少したのは原料の減産並に需要の減少に依るものである。之を郡別に示せば左の通りである。(單位は斤)

鹿島郡	甘藷	三、八七、四二	馬鈴薯	三、八七、四二
行方郡	甘藷	一、四〇、〇〇〇	馬鈴薯	一、四〇、〇〇〇
筑波郡	甘藷	三、三、七六	馬鈴薯	三、三、七六
計	甘藷	八、五一、一八六	馬鈴薯	八、五一、一八六

統計調査員異動

全	昭和十四年九月十日	(上ノ新任括弧内ハ舊)
全	鈴木博	多賀郡多賀町
全	吉田善次郎	(鴨志田 善次)
全	古谷啓一	北相馬郡小絹村
全	石川源太郎	(本田作左衛門)
全	和智延良	(古谷一夫)
全	小澤義夫	(橋本 眞策)
全	鈴木喜徳	猿島郡新郷村
全	深見瀧三郎	(中川 和市郎)
全	野村眞一郎	新治郡斗利出村
全	野村眞一郎	(萩原 稠作)
全	野村眞一郎	行方郡麻生町
全	野村眞一郎	(栗原 武雄)
全	野村眞一郎	行方郡延方村
全	野村眞一郎	(穴戸 甚三郎)
全	野村眞一郎	眞壁郡村田村
全	野村眞一郎	(潮田 藤作)
全	野村眞一郎	稻敷郡柴崎村
全	野村眞一郎	(柳町 静一)
全	野村眞一郎	内藤 勇次